

- p. 232
- 16) ISO/TC 102/SC2 Document No. 219E (1970)
- 17) P. KÖNIG, K-H. SCHMITZ, E. THIEMAN, and P. JAESCH: Arch. Eisenhüttenw., 47 (1976), p. 161
- 18) 吉田政雄, 寺田 宏: 日本化学会第 11 年会講演, 4K34 (1958)
- 19) C. M. JOHNSON and H. NISHITA: Anal. Chem., 24 (1952), p. 736
- 20) 大槻 孝, 徳部春雄, 山田 大: 製鉄研究, (1976) 287, p. 41
- 21) B-L. SJÖBORG: Talanta, 14 (1967), p. 693
- 22) I. IWASAKI, S. UTSUMI, and C. KANG: Bull. Chem. Soc. Japan, 36 (1963), p. 325
- 23) W. KIRSTEN: Microchim. Acta, 35 (1950), p. 1
- 24) 井沢君江: 日本分析化学会第 25 年会講演要旨集, (1976), p. 260
- 25) K. WATANABE: Anal. Chim. Acta, 80 (1975), p. 117
- 26) D. SVEDUNG: Scand. J. Met., 3 (1974), p. 75

統計

韓国の鉄鋼輸出

韓国の 1980 年の全鉄鋼輸出は、前年比約 5 割増の 517 万 t で輸入を大きく上回り、鉄鋼純輸出国としての体制を定着させたかに見える (図 1)。

昨年度の国内経済の極端な不振 (実質 GNP のマイナス成長) にもかかわらず、鉄鋼生産はここ数年の増加傾向を維持し約 800 万 t 強に達した。生産の 30% 前後を占める輸出の増加に負うところが大きい。1980 年は特にその傾向が著しく、輸出比率は実に 44% に

達した。ただし、韓国の場合、素材輸入が多く、例えばホットコイル輸入→再圧延・パイプ製造→製品輸出など、日本のそれと性格が若干異なる。

ところで韓国の鉄鋼輸出のうち日本向けが大幅に増加して 108 万 t (前年比 87% 増) となり、アメリカ向け (109 万 t) と同じ水準に達した。日本向けの主な製品は、厚板 (40 万 t)、鋼塊・半製品 (29 万 t)、銑鉄 (10 万 t) などである。ASEAN 地域、サウジアラビア向けも増加し、輸出先は多様化している (図 2)。

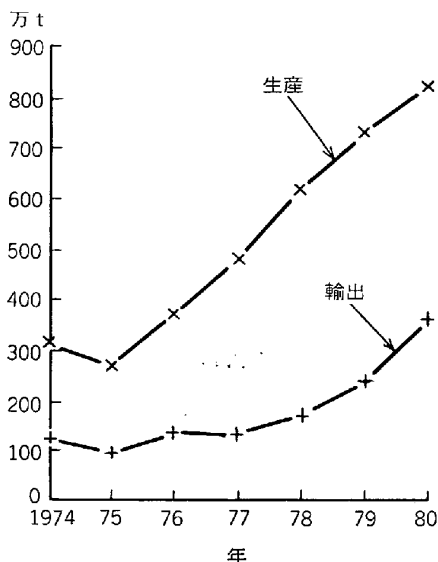


図 1 鋼材生産と鋼材輸出

(日本鉄鋼連盟: 鉄鋼界報, 第 1239 号, 56 年 7 月 11 日)

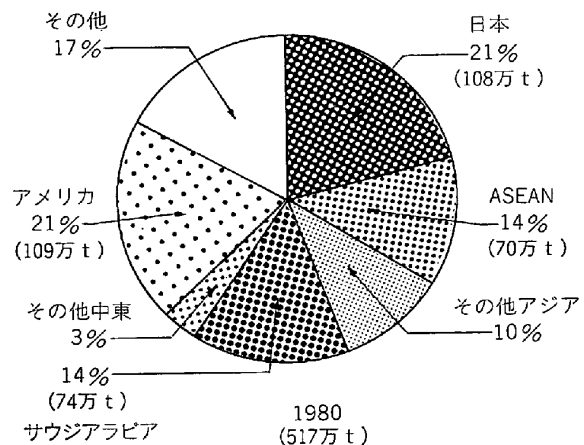


図 2 韓国の仕向先別輸出 (全鉄鋼ベース)